



紙を貼る作業は一つの玉に一週間かけて七重に!!

夏は現場に行っても言われた通りに動くだけ…という感じでした。花火作りは火薬を作る人、球状に並べる人、紙を貼る人と大きく分けて3つの作業班に分かれています。会社に入って先輩から全ての作業を覚えてもらいましたが、作業に慣れたりコツを掴むまでに3年はかかりました。今は色の配合を考えながら火薬作りをしています。

阿部さん：はい、初めての打ち上げは今から約60年前にアフガニスタンへ行くと聞いています。私はハワイ、韓国、シアトル、ドイツ、中国など7カ所に行きました。ハワイには新潟と小千谷の花火会社と協力して6年連続で参加しています。

海外の花火大会にも参加しているそうですね。

阿部さん：全国各地40カ所位で打ち上げています。日程が重なる時もあるから、一人がだいたい10カ所の現場に行きます。

花火師の仕事は複雑で繊細なんですね。加茂以外でも打ち上げているのですか？

阿部さん：火薬の配合や組み合わせ、並べ方など思いついたらまず試してみよう、どんな風になるか考えながら作るのが楽しいんです。今は失敗することの方が多いけど、色々と試しな

最後に花火作りの魅力は何ですか？

阿部さん：花火の火薬は摩擦や静電気でも爆発してしまうほどデリケートな物なので、常に危険と隣り合わせだという緊張感を持って作業しています。作業前には静電気を除去する棒に触ったり、電気をためにくくい作業服や靴を使用するなどの対策をとっています。

火薬を扱う大変な仕事ですが…。

阿部さん：小さい頃から挑戦しています。そして、誰が見てもこの花火は「阿部煙火の花火だ」とわかるような花火を作ることが目標です！

友希さんオリジナルの花火を見られる日が近いかもしれませんね！今年の花火大会も楽しみにしています。

阿部煙火工業(株)

住所：(本社工場) 加茂市新町1-15-1
(土倉工場) 加茂市大字上土倉
松ヶ沢445

TEL：0256(52)6189 (土倉工場)
HP：http://www.hanabi-abe.co.jp/



今回の AKINDO

阿部煙火工業(株)

阿部 友希さん(36歳)

趣味：釣り、自転車、フットサル、お酒

※写真は全国でもめずらしい三尺玉



阿部さん：ありがとうございます。現在の会社を立ち上げたのは大正初期ですが、明治時代の末頃には花火を製造していたそうです。もともとは花火だけではなく、「渋紙」(和紙を貼り重ね、柿渋を塗って乾かしたもの)も作っていたと聞いています。

越後加茂川夏祭りの打ち上げ花火や噴水花火、ナイアガラに毎年感動しています。阿部煙火さんはいつ頃から花火を作っているのですか？

夏の夜空を華やかに演出する花火。今回は花火の製造・打ち上げを手がける「阿部煙火工業(株)」阿部友希さんにお話を伺いました。



火薬を球状に並べる作業中 /

百年以上も続いているとは！そして、友希さんも花火の世界に入ったのですか？

阿部さん：小さい頃から社長(父)について現場へ行ったり、高校生の時にはアルバイトで設置の手伝いもしました。入社一年目の